

CMPの概要について

2026年5月
富士フイルム株式会社
ESG推進部
環境・品質マネジメント部

目次

1. 概要	3
2. CMPとは	4
3. CMP開発スケジュール	6
4. 富士フイルムグループにおける情報伝達	7
5. まとめ、お願い事項	9

1. 概要

- 製品に含まれる化学物質を把握し適切に取り扱うためには、化学物質情報とその安全な取り扱い方法がサプライチェーンで共有されることが必要です。現在は、取引事業者間での情報伝達シート（chemSHERPA）の受け渡し等により情報伝達が行われています。
- 次世代の仕組みであるCMP※¹は、製品に含まれる化学物質情報を一括のシステムで伝達する仕組みです。CMPコンソーシアムで構築が進められており、2026年10月から運用開始の見込みです。
- 富士フイルムグループは、CMPに関わる各種活動に積極的に参画しています。大規模実証（後述）にも対応し、現行ProChemist/ASのサービス終了に向けては円滑な移行が図れるよう計画的に導入検討を進めます。進捗については、次回以降のサプライヤ説明資料で説明します。

今回のサプライヤ説明資料では、CMPの概要、情報伝達方法がどのように変わるかを説明いたします。

※1 CMP :

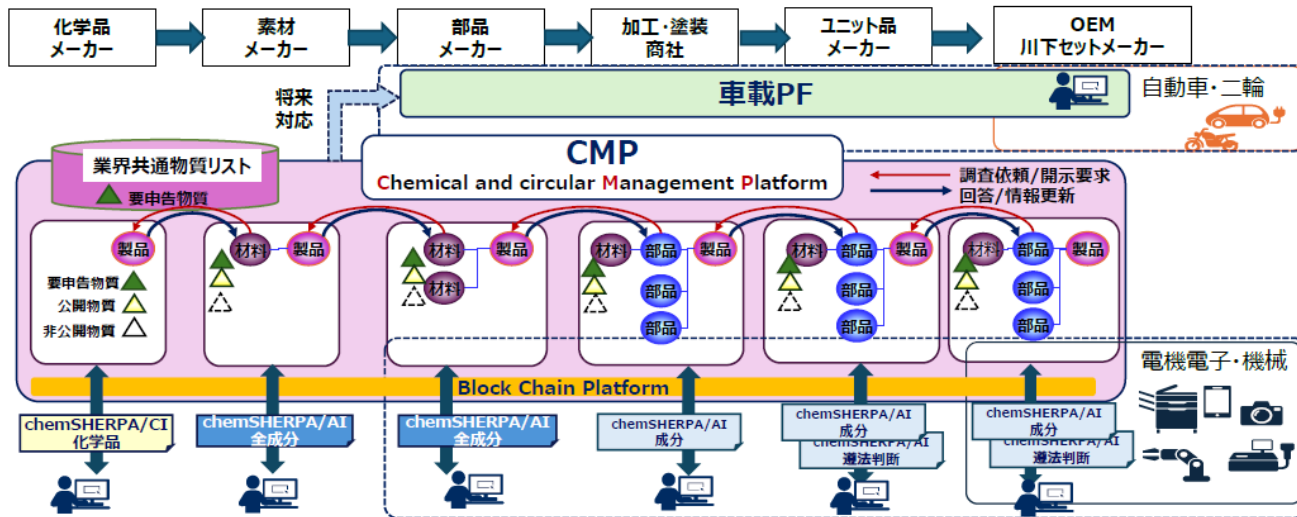
- **C**hemical and circular **M**anagement **P**latform、製品含有化学物質・資源循環情報プラットフォーム
- 含有化学物質情報を川上から川下につなぐ情報伝達システム。将来はあらゆる製品環境情報へ活用していくことを想定している。
- 経産省が推進しているウラノス・エコシステムと連携し、日本のデータ主権の確保、企業・産業競争力強化につながる仕組みとすることを目指している

2. CMPとは

※コンソーシアム設立前のCMPタスクフォースにおけるアンケート結果

CMPとは

- 化学品から素材、部品、最終製品に至るまでの含有化学物質及び資源循環情報をシステムで伝達する仕組み
- 既存のIMDS（以下、車載PF）やchemSHERPAと共存しながら、情報の信頼性担保、人の作業の極小化、情報伝達スピードの向上を狙うものです。



4

2. CMPとは

■CMPのコンセプト

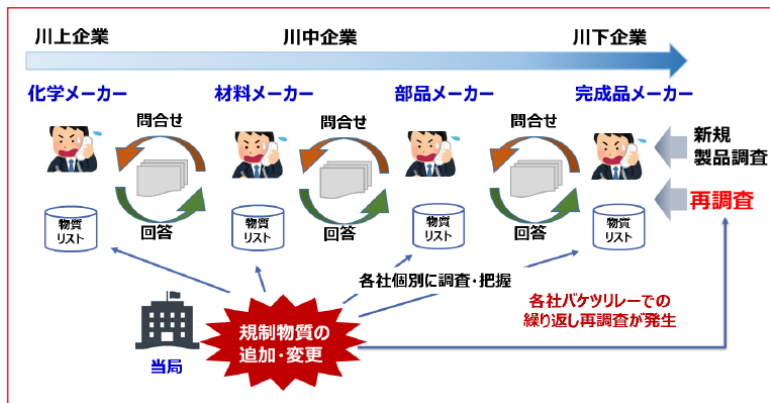
✓川上から川下へのシームレスな情報伝達

(従来のバケツリレー型から、CMPコンソーシアムからサプライチェーン全体への一括トリガー型への変革)

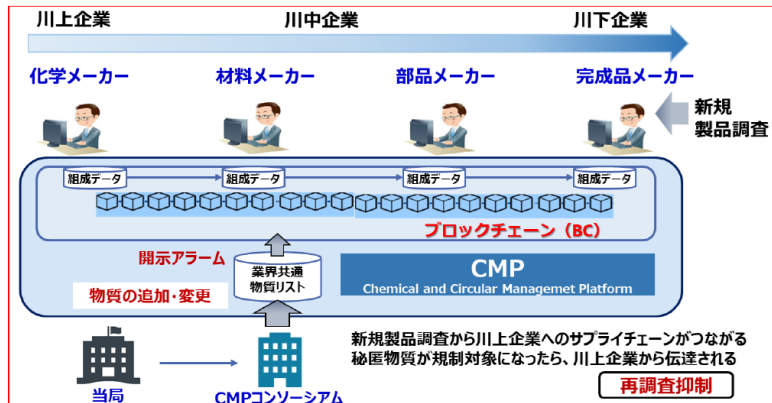
✓規制変更時に必要となる再調査の抑制

✓資源循環等新たな情報への展開

【従来の情報伝達】



【CMPが目指す情報伝達の姿】



【期待効果】

- システム側での機密性担保
- 情報伝達に係る業務負荷軽減
- 伝達スピード向上

出典：CMPコンソーシアム 一般向けCMP説明会（2025年12月8日） p.9

出典：CMP利用ルールV1（公開版） p.2 図1 CMPの情報伝達

依頼事項：CMPのメリットについて、CMPコンソーシアムの資料でご確認ください。

[CMPコンソーシアム 一般向けCMP説明会（2026年12月8日） p.11～20 3.CMPで何が良くなる？](#)

3. CMP開発スケジュール

開発スケジュールと大規模実証

2026年1月末までにベンダー間テストを終えて、3月末までの総合テストでCMPタスクフォースにて企画したシステム要件が実装されていることを検証します。CMPコンソーシアムで動作確認が完了したシステムを、4月からの大規模実証でお使い頂くことになります。総合テスト状況は、3月に予定している「参加説明会」でお伝えいたします。

【更新情報】
総合テストまで終了しています



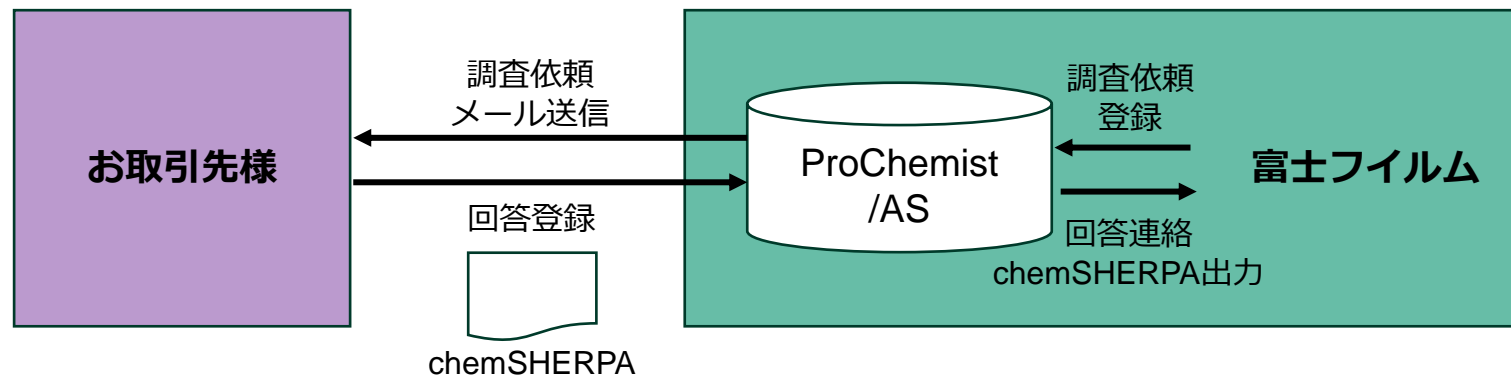
【更新情報】
CMP
本格利用開始は
9月→10月に変更
となっています



4. 富士フイルムグループにおける情報伝達

■現状

含有化学物質管理サービス（ProChemist）を使用した調査依頼/回答※3,4



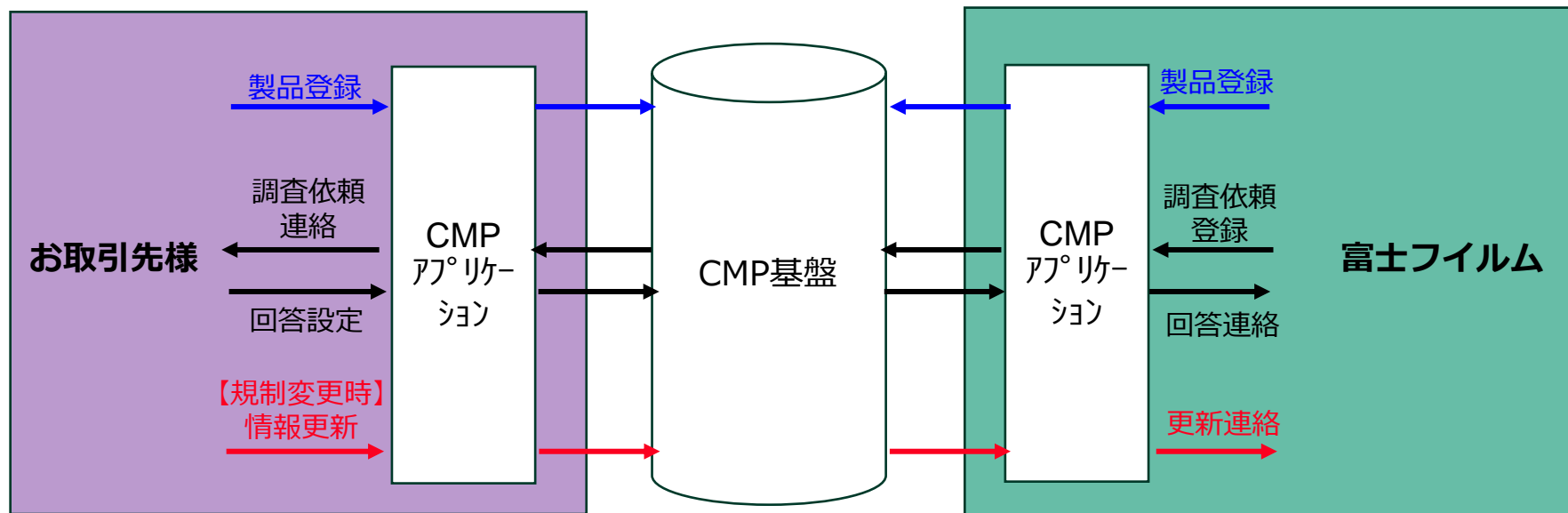
※3 ProChemist/AS：調査依頼、回答取得を効率的に実施するクラウドサービス（NEC提供）
調査依頼、回答(chemSHERPA)はProChemist上で管理される。お取引先様は無償で利用可能。

※4 ProChemistを使用しない場合は、メール等での調査依頼/回答

4. 富士フイルムグループにおける情報伝達

■ CMP移行後

CMP基盤^{※5}を介した情報伝達。CMP基盤へのアクセスにはCMPアプリケーション^{※6}が必要。^{※7,8}



※5 CMP基盤：CMPコンソーシアムが開発する情報プラットフォーム。入力された化学物質情報は、CMP基盤上で管理される。

※6 CMPアプリケーション：システムベンダが提供する伝達サービスで、利用者(お取引先様、当社、当社お客様)が個別に契約。事業者規模に応じた利用料負担が発生する。

※7 お取引先様がCMPアプリケーション未導入の場合は、chemSHERPAを使用したメール等での調査依頼/回答

※8 ProChemist回答登録時のSDS最新版添付について、CMP移行後の運用方法は今後ご連絡

5. まとめ、お願い事項

- CMPは、製品含有化学物質情報をブロックチェーン技術を活用した一括のシステムで伝達する次世代の仕組みであり、営業秘密情報を担保しながら、情報伝達に係る業務負荷軽減、伝達スピード向上の効果が期待されます。
- 富士フイルムグループは、計画的にCMPの導入検討を進め、次回以降のサプライヤ説明資料で説明します。
- お取引先様がCMPでの情報伝達を行うためには、CMP基盤へアクセスするためのCMPアプリケーションをお取引先様自身で準備いただく（システムベンダとの契約等）必要があり、事業者規模に応じた利用料がかかるなどの注意点があります。

CMPコンソーシアムが提供する資料をご確認いただき、CMPについての情報収集をお願いいたします

富士フイルム株式会社
ESG推進部 環境・品質マネジメント部

グリーン調達基準担当

Email. FF_Green_Procurement@fujifilm.com

FUJIFILM
Value from Innovation